

アワダチソウグンバイの発生について

1. 病虫害名：アワダチソウグンバイ *Corythucha marmorata* Uhler

2. 発生作物：宿根アスター

3. 発生の経過

令和 6 年 8 月中旬、県中央部で栽培されている宿根アスターで、葉に白いかすり状の脱色斑点が見られ、葉に寄生するグンバイムシ類の成幼虫が確認された。

農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、寄生していたグンバイムシ類は海外からの侵入害虫であるアワダチソウグンバイであることが確認された。本県で農作物における本虫の加害が認められたのは初めての事例である。本種は北米原産で、平成 12 年に兵庫県で初確認後、日本各地で発生が確認されている。

4. 形態・生態と被害の特徴

(1) 成虫（図－1）の体長は約 3mm で、体の周囲や背面に鋭い棘が並んでいる。背面には不定形な茶色の斑紋があるが、翅の先方向では横条斑となる。終齢幼虫は体長約 1.8mm、黄褐色で翅芽の基部や腹部の基部がやや褐色になる。

(2) 成虫、幼虫（図－2）は、葉裏に寄生し、葉を吸汁加害する。特に幼虫は集団で加害する。被害葉には白いかすり状の脱色斑点（図－3）が見られる他、茎葉には黒い排泄物が見られる。被害が甚だしい場合は、葉の枯死、落葉が見られる。

5. 寄主範囲

本虫の主な寄主はアスター、きく、ひまわり、ごぼう、セイタカアワダチソウ、ブタクサなどのキク科植物で、なす、さつまいもへの加害も報告されている。

6. 防除対策

(1) ほ場周辺のセイタカアワダチソウやブタクサなどのキク科雑草は、発生源となるので早期に除草を行う。

(2) 宿根アスターでは本虫に対する適用農薬はないが、きく、きく（葉）、食用ぎくではコテツフロアブル（2,000倍、2回以内）、ひまわりではアースガーデン 4（原液、2回以内）が登録されている。

7. 資料



図-1 アワダチソウゲンバイの成虫



図-2 アワダチソウゲンバイの幼虫



図-3 宿根アスターのかすり状の脱色斑点

【 問合せ先 】

秋田県病虫害防除所	TEL 018-881-3660
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3326
掲載HP	https://www.pref.akita.lg.jp/bojo/